

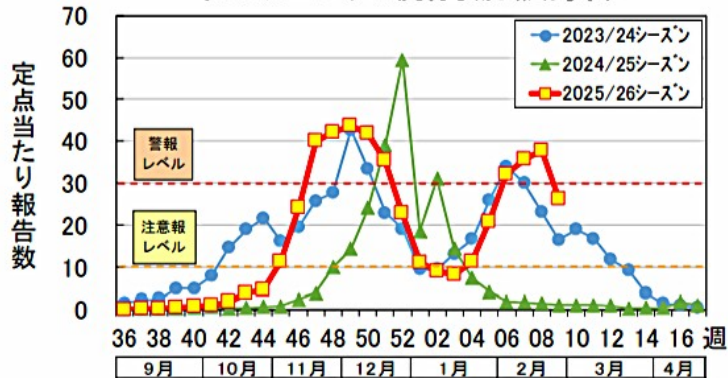
2026年第9週（2月23日～3月1日）

1 インフルエンザ

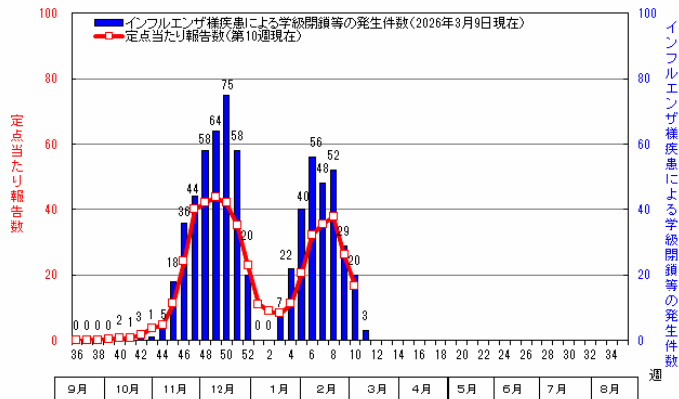
定点当たり26.15人の報告がありました。前週と比べて減少しましたが、多い状況が続いており、注意が必要です。

また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は29件の報告がありました。

インフルエンザの流行状況(広島市)



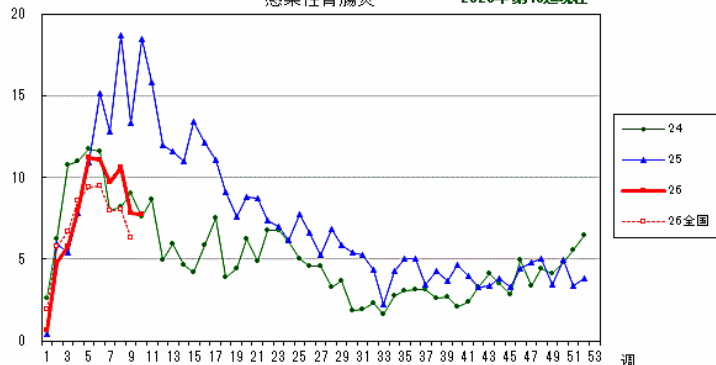
インフルエンザ集団感染



2 感染性胃腸炎

定点当たり7.81人と、前週と比べて減少しましたが、多い状況が続いています。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理など、感染予防対策を徹底しましょう。

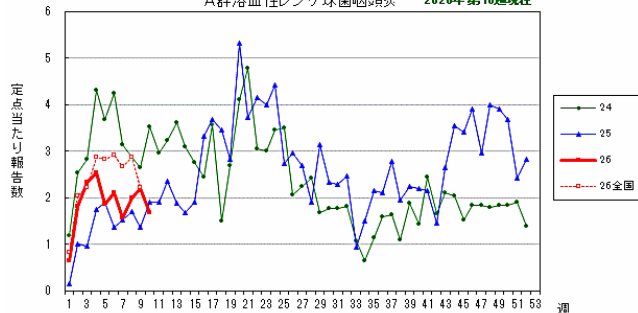
感染性胃腸炎 2026年第10週現在



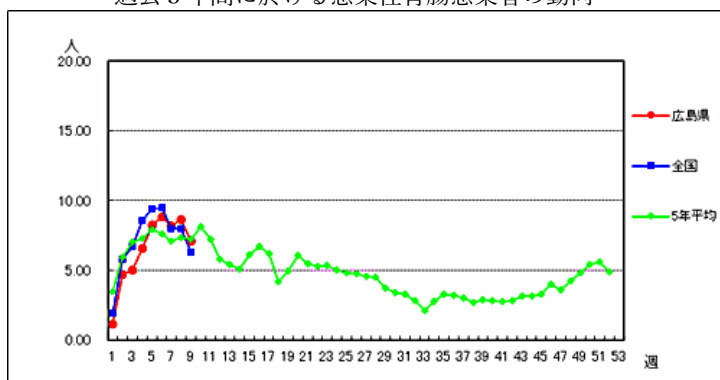
No	週	報告日	施設所在地	施設の種類(※)	病原体	有症者数
20	10	3月4日	中区	医療機関	ノロウイルス	25
19	10	3月3日	中区	高齢者関係施設	不明	10
18	10	3月2日	南区	高齢者関係施設	不明	26
17	10	3月2日	東区	高齢者関係施設	不明	20
16	8	2月16日	東区	高齢者関係施設	不明	12
15	6	2月6日	中区	高齢者関係施設	不明	12
14	5	1月29日	西区	高齢者関係施設	ノロウイルス	33

前回報告者数: 26

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2026年第10週現在



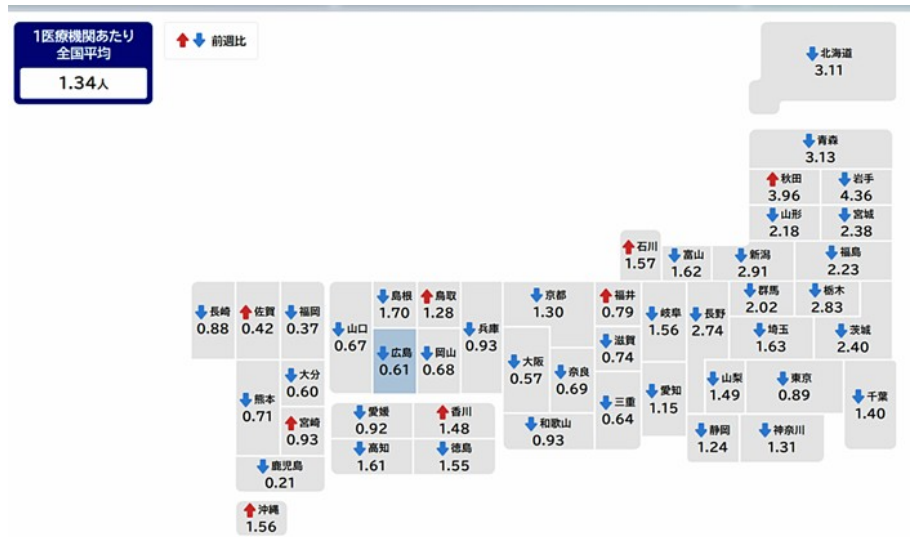
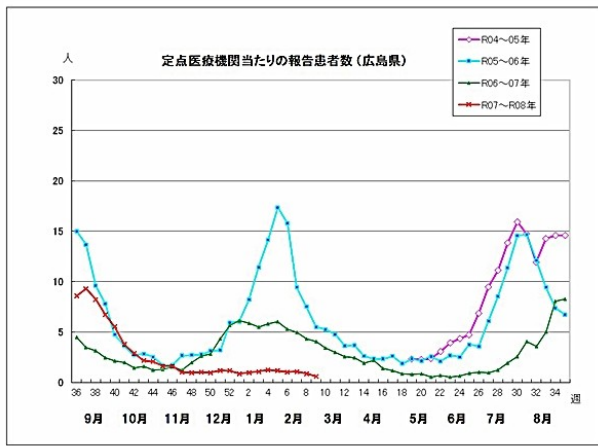
過去5年間に於ける感染性胃腸感染者の動向



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり2.19人の報告がありました。感染経路は、飛沫感染や接触感染で、2～5日の潜伏期を経て、突然の発熱、のどの痛み、莓舌などの症状が現れます。

4 新型コロナウイルス感染症



次第にこれまでのコロナウイルス感染症と同レベルの症状となりつつある。
しかし感染力は依然として強力である。

5. 過去約1年間（2025年～2026年初め）に日本国内で注目された感染症トピックス

大きく分けると①例年型の流行の変化、②新しい警戒感染症、③海外からの持ち込み型感染症の3系統が目立ちました。

① 季節性感染症の「流行パターンの変化」

コロナ後の社会活動回復により、従来の季節性が崩れた感染症が多く見られました。

1. 感染性胃腸炎（ノロ・ロタなど）

2025年冬～2026年初頭の最大トピックの一つです。

特徴

- 保育園・学校・高齢者施設で**集団感染が多発**
- ノロウイルス GII.4 系統の**変異株**が指摘
- 消毒不足による施設クラスター

話題になった理由

- 手洗い習慣が弱まった
- 外食・イベント回復
- 子供の免疫空白

2. インフルエンザ（記録的流行）

2025年冬はここ10年でもかなり大きい流行。

A型（H1N1・H3N2）同時流行

- 学校閉鎖が増
- ワクチン接種率低下

特に2025年12月～2026年1月患者数ピーク

② 「急増して話題になった感染症」

1. 梅毒（日本史上最大レベル）

これは医療界ではかなり深刻な問題です

- 日本の患者数
- 2010年 約600人
- 2023年 **1万4000人以上**
- 2024～2025も **高止まり**

特徴

- 若年層女性で増加

都市部中心
無症状感染多い

2. 百日咳（2025年に急増） 2025年は予想外の急増。

理由

ワクチン効果の減衰
大人の感染
乳児感染

医療界では「隠れ流行」と言われています。

③ 海外由来で警戒された感染症

1. 麻疹（はしか）

日本は基本的に排除状態ですが
海外旅行者の持ち込み感染が時々発生。

特に

東南アジア
欧州からの輸入例。

感染力が極めて強いので1人 → 10人以上に広がる可能性があります。

2. デング熱（輸入感染）

日本国内の患者はほぼ海外旅行帰国者ですが
温暖化でヒトスジシマカ拡大が問題視されています。

④ 医療界で議論になっている「次の感染症」

1位

薬剤耐性菌（AMR）

抗生物質が効かない菌
代表例

MRSA ESBL 産生菌 CRE（カルバペネム耐性菌）

2位 新型鳥インフルエンザ

H5N1

3位 コロナ変異株

完全消滅はほぼ不可能